



■その他の展示品

県内初!

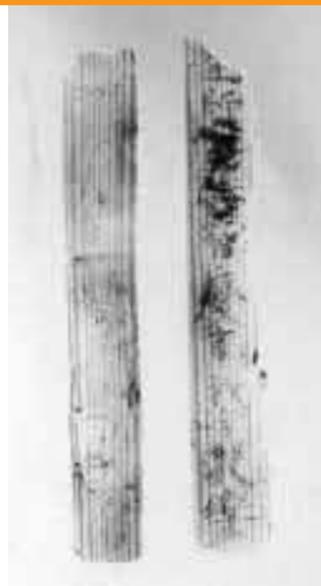
こけら経きょう【高住宮ノ谷遺跡】

こけら経（柿経）は、細長い薄板に法華経を墨書したもので、死者への供養などとして書写し、寺院に奉納したり、儀式の後に水に流したりしたようです。

高住宮ノ谷遺跡のこけら経は、661土坑という丘陵裾の湧水地点に設けられた穴から発見されました。この土坑には溝が設けられており、この土坑に貯めた水をこの溝に流していたようです。今回出土したこけら経は儀式の後でこの湧水地点に流したものかもしれません。

DATA

残存長：25.2cm、最大幅 2cm、厚さ 0.5mm
樹種：スギ 柎目



赤外線画像（撮影：奈良文化財研究所）

「坐師子座。而自慶言。我今快樂。」
妙法蓮華經譬喻品第三（大正蔵九卷一四頁中二六・二七行）

編み物素材【高住井手添遺跡】

高住井手添遺跡では縄文時代終わり頃の編みカゴが13個見つっています。それだけでなく、編みカゴの素材と思われるヒノキ状の細長い材が束になって出土しました。この素材はヒノキを割り裂いて作ったことが調べた結果分かりました。

同様に編みカゴの材質を調べたところ、素材にはヒノキ、帯や縁など一部にテイカカズラが使われていることがわかりました。これらは当時の編組（カゴなどを編む）技術を考える上で重要な出土品です。

DATA

残存長：20～61cm、幅・厚さ 1～5mm
樹種：ヒノキ 割り裂き材



素材束出土状況



カゴの編み目（拡大）

地震痕跡（噴砂）【高住平田遺跡】

噴砂は地下の砂層が液状化現象を起こし、上の層を貫いて吹き出す現象です。

高住平田遺跡ではこのような噴砂の痕跡が数箇所見つかっています。噴砂は震度6以上の大地震が発生した際に形成されると考えられており、この地域で過去に大地震が発生したことを物語っています。



高住平田遺跡 噴砂（砂脈）検出状況

新春特別展示企画第2弾！ 調査担当者こだわりの一品！

Part I 高住地区の遺跡

高住宮ノ谷遺跡・高住平田遺跡・高住井手添遺跡・高住牛輪谷遺跡

高住地区は鳥取市の湖山池南岸やや東寄りに位置し、湖山池に注ぎ込む三山口川によって形成された三角州と南北に延びる丘陵が浸食を受けて樹枝状に小谷が形成された地形となっています。遺跡は主に丘陵裾部に集落跡、平野部分に河川跡や水田跡が広がっています。

高住地区での人々の活動痕跡は非常に古く、高住井手添遺跡や高住宮ノ谷遺跡では縄文時代早期（約 8,500 年前）の土器が発見されています。弥生時代には高住井手添遺跡で護岸工事の痕跡が見つかり、周辺での居住や生産活動がうかがえます。古墳時代終わり頃には高住宮ノ谷遺跡、高住牛輪谷遺跡で、丘陵裾部分に集落が営まれており、周辺からは木製祭祀具などがみつっています。高住平田遺跡では古代の土器や木製祭祀具、銅印が見つかり、その後は水田に利用されていったようです。このように鳥取県東部において高住地区は非常に古い歴史をもっていると言えます。



こだわりの一品！ 団扇形木製品【高住牛輪谷遺跡】

団扇形木製品は、古代の威儀具（権力を示す道具）で、儀式や祭祀のときに使われたと考えられます。本来は下の写真のように半月状の部分に羽根または獣毛を挟んでいました。

古墳時代終わり頃の出土例は全国的に珍しく、高住の地に当時の権力者が存在していたことを示す貴重な出土品です。また、鳥取西道路の発掘調査では、松原田中遺跡でも古墳時代初め頃の団扇形木製品が2点出土しています。松原田中遺跡も大型建物跡や玉作の跡など当時の権力者の存在が推定される集落遺跡で、いずれも湖山池南岸の古墳時代を解明する上で重要な遺物です。



団扇形木製品の出土状況

DATA

長：40cm、幅 9.1cm、厚さ 4.0cm
樹種：スギ 芯去削出材



団扇形木製品の復元イメージ



鳥取県埋蔵文化財センター

鳥取県鳥取市国府町宮下 1260 (0857) 27-6711
maibuncenter@pref.tottori.lg.jp

たか ずみ みや の たに

高住宮ノ谷遺跡

遺跡は湖山池南岸の小さな谷に位置しています。遺跡周辺では縄文時代早期には人々が活動しており、土器・石器が丘陵裾部を中心に確認されています。また、周辺の丘陵は「高住銅鐸」の出土推定地があり、弥生時代の遺構は不明ですが、古墳時代の層から出土した舌状石製品は関連する遺物として注目されます。

古墳時代終わり頃から古代にかけて、遺跡のあった場所には集落が形成されます。そのうち1棟は断面が長方形となる板状の柱を使った大型建物で、特別な用途に利用された建物と考えられます。

中世以降、谷部は水田に利用され、現在まで続きます。また、丘陵裾の土坑からは県内初の「こけら経」が出土し、当時の信仰を考える上で重要な遺物です。



高住宮ノ谷遺跡全景（南東から）

DATA

所在地：鳥取県鳥取市高住字宮ノ谷
調査面積：6,350 m²
遺跡種別：集落、生産
主な時代：縄文時代～中世
主な遺構：竪穴建物、掘立柱建物、溝、土坑、水田（古墳時代）
掘立柱建物、水田、道路、土坑（古代～中世）

たか ずみ ひら た

高住平田遺跡

遺跡は湖山池南岸の三山口川左岸から西側丘陵の裾に位置しています。

最も年代が古い出土品は、縄文時代前期（約6,000年前）の土器で、縄文時代中期の土器や石器も発見されています。

弥生時代の遺構は不明ですが、古代（飛鳥～平安時代）には自然流路の中から供膳具（碗、皿など）がまとめて発見され、当時の祭祀のあり方を表している可能性が考えられます。また、銅印とともに墨書土器や硯が出土したことから、奈良時代から平安時代の遺跡周辺には、文書を作成する必要があった役所や寺院に関連する施設が存在していた可能性があります。

鎌倉時代以降になると遺跡周辺には水田が広がっていたようで、川や溝を利用して耕作を行っていたようです。



高住平田遺跡全景（南から）

DATA

所在地：鳥取県鳥取市高住字平田、中瀬
調査面積：11,415 m²
遺跡種別：集落、生産、その他
主な時代：縄文時代～近世
主な遺構：自然流路、土坑、溝（縄文時代）
自然流路、木製構造物、掘立柱建物、溝、土坑、水田、土採り穴（古代～近世）

たか ずみ い で ぞえ

高住井手添遺跡

遺跡は湖山池南岸の南北に延びる小平野中央部に位置しています。調査の結果から、縄文時代早期（約9,000年前）から弥生時代終わり頃（約1,800年前）にかけての遺構と遺物を発見しました。

縄文時代終わり頃には遺跡内に大きな自然流路が存在し、水場として利用されていたことがわかりました。そこから大量の土器や編みカゴがまとめて発見されました。

また、弥生時代の小海退が起きる弥生時代中頃（約2,000年前）には、水の流れをコントロールする堰や護岸などの構造物が築かれていたことが確認され、当時の土木技術を考える上で非常に重要な発見がありました。



高住井手添遺跡全景（南から）

DATA

所在地：鳥取県鳥取市高住字井手添
調査面積：4,758 m²
遺跡種別：集落、その他
主な時代：縄文時代～弥生時代
主な遺構：自然流路、溝、土坑（縄文時代）、溝、土坑、ピット（弥生時代）

たか ずみ う し わ たに

高住牛輪谷遺跡

遺跡は湖山池南岸の三山口川右岸から丘陵裾に位置しています。縄文時代終わり頃（約3,500年前）の貯蔵穴が見つかったことから、この時期から人々が遺跡周辺で活動していたことがうかがえます。

弥生時代後半（約2,000年前～：弥生の小海退の時期）には、丘陵裾部分で弥生土器がまとめて出土したことから、付近に集落が形成されていたようです。

遺跡の最盛期は古墳時代終わり頃（約1,400年前）で、谷部分を大規模な造成で埋め立てて、その上に竪穴建物や掘立柱建物を築いていました。また、暗渠を備えた溝からは木製祭祀具のほか「団扇形木製品」が発見され、当時の権力者の存在を明らかにする重要な遺物です。



高住牛輪谷遺跡全景（東から）

DATA

所在地：鳥取県鳥取市高住字牛輪谷
調査面積：8,182 m²
遺跡種別：集落、生産、その他
主な時代：縄文時代～近世
主な遺構：貯蔵穴（縄文時代）、竪穴建物、掘立柱建物、土坑、溝、水田、木製構造物、ピット（弥生～古墳時代）
掘立柱建物、水田、溝（古代～近世）